

宮の材料の内在的な意義

(2)

聖書：Ⅰコリント 3:12-17. Ⅱコリント 5:9-11. マルコ 14:7-8.

ガラテヤ 2:20. Ⅰペテロ 2:4-7. 啓 3:8, 12

- I. 箱を除いて（列王上 6:19）、調度品と器具との大きさと数は、幕屋におけるものと比べて、宮において大いに拡大しました（歴代下 4:1-8）。これが示しているのは、キリストご自身（箱によって表徴される）は拡大されることができなくても、キリストのすべての豊富に対するわたしたちの経験（宮と、その調度品また器具によって表徴される）は大いに増し加わり拡大されて、彼の拡大された表現に符合すべきであるということです——エペソ 3:8, 14-19. ピリピ 3:7-14. 参照、歴代上 22:14-19. 29:2-4.
- II. ダビデは神によって与えられたビジョンの中で、器の大きさを見ただけでなく、器の重さも見ました。器の大きさと重さが表徴しているのは、召会の中で、キリストに対する経験のさまざまな面と、各肢体のさまざまな賜物と機能とが、正しく釣り合わされ、均衡がとられなければならないということです——歴代上 28:14 :
 - A. 歴代志上第 28 章 15 節にととてもすばらしい言葉があり、それは言います、「それぞれの……重さが示され、……各種の……奉仕にしたがって」。言い換えれば、宮におけるそれぞれの項目の重さは、その奉仕に符合していました——参照、列王上 6:20. エペソ 3:18.
 - B. 召会の必要は多面的であり、キリストのからだには多くの肢体と多くの機能があって、それらの多くの必要に応じます。あらゆる器は、大きくても小さくても、不可欠な機能を持っています—— 4:16. Ⅰコリント 12:14-31. Ⅱコリント 10:13.
- III. わたしたちは神の宮としての召会を、正しい材料をもって建造することに注意する必要があります。キリストの裁きの座で、それぞれの人の働きは、「どんなものであるか」にしたがって証明されます。わたしたちがキリストの裁きの座で裁かれるのは、わたしたちの働きの量にしたがってではなく、質にしたがってです——Ⅰコリント 3:12-17. 雅 1:10-11. Ⅱコリント 5:9-11. 啓 3:8. マルコ 14:7-8.
- IV. 宮の主要な部分は、木で造られ、金で覆われました。これは、人が神で覆われる（結合され、ミングリングされ、合併される）ことを表徴します——歴代下 3:7. 列王上 6:20-21, 30, 32, 35. 7:48-51 :
 - A. 主の回復は、神が彼の回復された民をご自身で覆うことから成っています。
 - B. 一は、三一の神の中へと深く浸潤し、わたしたちが完全に金で覆われるという事柄です。真の一の中に保たれる唯一の道は、十分な量の経験された神を持つことです——エペソ 4:3. コロサイ 2:19.

V. 宮の祭壇、鑄物の海、洗盤は、青銅で作られました：

- A. 青銅は、神の裁きを表徴します——出 27:1-8. 民 21:8-9. ヨハネ 3:14。
- B. 青銅の鑄物の海は、祭司がその中で洗うためであり、十二の牛がそれを支えていました（列王上 7:23-26. 歴代下 4:15. 出 38:8. エペソ 5:26）。十個の青銅の洗盤は、祭司たちがその中で洗うためではなく、犠牲を洗うためでした（歴代下 4:6）。
- C. 青銅の海と十個の青銅の洗盤（2-6 節. 列王上 7:23-40）が表徴しているのは、罪を認めさせ、裁き、更新する神の霊です。この霊は、キリストの死に基づいて、地上における神の住まいにあずかっている者たちから、すべての消極的な事物を洗い去ります（ヨハネ 16:8. テトス 3:5. ヘブル 10:22）。

VI. 宮の柱は、青銅で建てられました。青銅は、神の裁きを表徴します——列王上 7:14-15. 啓 3:12. 21:22：

- A. 聖書で柱は、神の建造のしるし、証しであり、神の建造は、からだの生活を実行することにおける造り変えを通してです——創 28:22 前半. 列王上 7:15-22. ガラテヤ 2:9. I テモテ 3:15. 啓 3:12. ローマ 12:2. エペソ 4:11-12。
- B. 創世記第 28 章 18 節によれば、ヤコブは枕としていた石を取り、それを柱として立てました：
 - 1. 石が枕になることが表徴するのは、わたしたちがキリストを主観的に経験することを通して、キリストの神聖な要素がわたしたちの存在の中へと構成し込まれることが、わたしたちの安息のための柱になるということです——マタイ 11:28-30。
 - 2. 枕が柱になることが表徴するのは、わたしたちが経験した、そしてその上に安息するキリストが、神の建造、神の家のための材料また支持になるということです——列王上 7:21. I テモテ 3:15。
- C. 神に役立つ人は、絶えず神の裁き（青銅）の下におり、自分が肉の中の人であり、何の価値もなく、ただ死と葬りにふさわしいことを認識しています——詩 51:5. 出 4:1-9. ローマ 7:18. マタイ 3:16-17：
 - 1. わたしたちは自分自身を無として、ただ十字架につけられる資格があるだけであると断定しなければなりません。わたしたちは何であっても、神の恵みにより、労苦するのはわたしたちではなく、神の恵みです——I コリント 15:10. ガラテヤ 2:20. I ペテロ 5:5-7。
 - 2. 信者たちの間の分裂と実を結ばないことの原因は、青銅がなく、神の裁きがないことです。それどころか、高慢、自慢、自己弁護、自己義認、自己是認、自己弁解、自己を義とすることがあり、人を牧養し捜すのではなく、人を罪定めし規制しています——マタイ 16:24. ルカ 9:54-55。
 - 3. わたしたちが青銅の人としての主を愛し、彼を経験するとき（エゼキエル 40:3）、彼はわたしたちの特別な愛、無限の忍耐、比類のない信実、絶対的なへりくだり、最高の純粋さ、至高の聖と義、わたしたちの公明正大となります——ピリピ 4:5-8。

D. 宮の柱の柱頭には、「格子細工の網と鎖細工の飾りひも」がありました。これらは錯綜する複雑な状況を表徴し、神の建造の中で柱である人たちはその中で生き、責任を担っています——列王上 7:17. II コリント 1:12. 4:7-8。

E. 柱頭の頂にはゆりとざくろがありました——列王上 7:18-20 :

1. ゆりが表徴するのは、神にある信仰の生活、すなわち、わたしたちが何であるかによってではなく、神がわたしたちにとって何であるかによって生きる生活です。青銅は「わたしではない」を意味し、ゆりは「キリスト」を意味します——雅 2:1-2. マタイ 6:28, 30. II コリント 5:4. ガラテヤ 2:20。
2. 柱頭の飾りひもの上のざくろは、命としてのキリストの豊富の豊満、満ちあふれと美しさ、表現を表徴します——ピリピ 1:19-21 前半. エペソ 1:22-23. 3:19。
3. 網細工の交差することと鎖細工の抑制を通して、わたしたちは純粹で、ただ神に信頼する生活をして、命における神の建造のために、キリストの神聖な命の豊富を表現することができます。

VII. 宮の石は、造り換えにおけるキリストの人性、造り換えられたキリストを表徴します——列王上 5:15-18. 6:7, 36. 歴代上 29:2. 歴代下 3:6 :

- A. 神として、キリストは肉体と成って人の肉体を着ました。彼は肉体の中の人、旧創造における人と成って、彼の人の部分において造り換えられる必要がありました——ローマ 1:3-4。
- B. そのような造り換えられたキリストは、今や神の建造の生ける石、土台の石、隅の石、頂石です——I ペテロ 2:4. イザヤ 28:16. I コリント 3:11. エペソ 2:20. I ペテロ 2:6. ゼカリヤ 4:7. 3:9. 啓 5:6. 4:3. 21:11。
- C. 宮の石はまた、石としてのキリストによって造り換えられた、キリストにある信者たちを表徴します——マタイ 16:18. ヨハネ 1:42. I ペテロ 2:4-7. 啓 21:11, 14, 18-21. 参照、ダニエル 2:34-35, 44-45。
- D. 新約は生ける石について語り (I ペテロ 2:5)、旧約は切られた石について語ります (列王上 5:15, 17-18. 6:7)。召会の建造のために用いられる石は、内側で生きており、外側で切られ (対処され) なければなりません (II コリント 4:16) :
 1. 召会の中で、ある兄弟姉妹は、採石場から切られたばかりの、鋭い角が多くある、「荒い」石にたとえることができます。人は彼らと接触すると、傷つけられ、心地よくない感覚を持ちます。
 2. 彼らは十分に安定していないので、建造されることができず、他の人たちと協力したり奉仕したりすることができず、他の人たちと共に戦うことができず、他の人たちと共に契約の箱を担ぐことができません。
 3. 宮の建造に用いられるあらゆる石は、原則において、すでに山で切られ対処されています。ですから、槌、斧、鉄の道具の音は聞こえず、宮は静かに建てられました——列王上 5:15-18. 6:7. 参照、イザヤ 30:15 前半。
 4. 召会は、自己の「騒音」なしに建てられるべきです。わたしたちが聞くべき召会の中の唯一の音は、音楽、すなわち、主を呼び求め、歓喜し、賛美し、

祈り、感謝し、歌う「喜びの騒ぎ声」です——詩 100:1-5. 使徒 4:10-12. ピ
リピ 4:4. ヘブル 13:15. I テサロニケ 5:16-18. コロサイ 3:16-17. 歴代上 6:31-32。

- VIII. 聖書はわたしたちに、七年半とおびただしい人の労苦をもって宮の建造が完了したことを告げています（列王上 6:1, 38. 5:13-16. 9:20-21）。これが示しているのは、わたしたちがキリストを経験して、更新され、深められ、安定し、増強され、強化され、拡大されて、キリストのからだの実際の中へと入ることが、「日ごとに」、「少しずつ」、「ますます明るくなる」、からだの中での徐々に進む経験であり、ついには夜が明けて、明けの明星がわたしたちの心に昇るということです——II コリント 4:16. 出 23:30. 箴 4:18. II ペテロ 1:19。